

豊島区立雑司が谷旧宣教師館（旧マッケレーブ邸）

明 治時代には、多くの外国人宣教師が布教のため来日した。

そのうちの1人、アメリカ人宣教師のジョン・ムーディ・マッケレーブが、自宅兼布教活動の拠点として建てたのが、この旧マッケレーブ邸だ。

木造2階建ての建物は、19世紀後半のアメリカ郊外住宅の特色を写した質素な外国人住宅である。

外壁は、雨水の浸入を防ぐ効果が高い「下見板張り（横長の板を上下が重なるように張る方式）」でつくられている。各階の間で、外壁が下に広がるようにカーブしているところは、国内に残る宣教師館では大変珍しい。

また、細部は「カーペンターゴシック（大工ゴシック）様式」でデザインされ、玄関ポーチの方杖など、随所にその特徴が表われている。

この建物は、マッケレーブ自身と日本人大工の棟梁が相談しながら施工されたと伝わっている。2階の天井格子には割竹が使われ、外国人の竹への興味と、日本人大工の工夫が見受けられる。

建物の南側の広縁は、サンルームとしても使えるように、全面ガラス張りとなっている。陽光がさんと降り注ぎ、床にも天井にも木材がふんだんに使われた内装と相まって、建物の内部はぬくもりを感じさせる。

各居室には、暖炉が設けられている。

DATA

名称 豊島区立雑司が谷旧宣教師館
（旧マッケレーブ邸）
所在地 東京都豊島区雑司が谷1-25-5
完成 明治40年 設計者 不詳



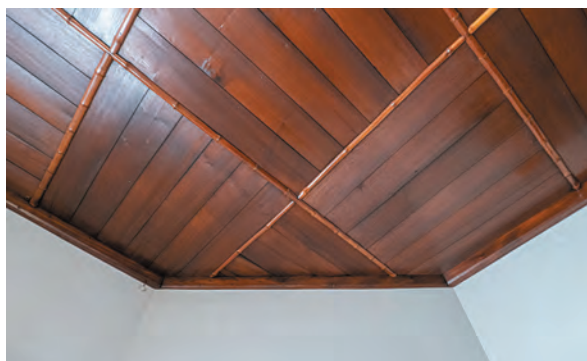


居間には広縁（サンルーム）からの
陽光が降り注ぐ

1階居間の暖炉は特に立派で、アールヌーボー風のタイルで彩られ、ケヤキ材の前飾りが施されている。
明治期の宣教師館は日本の各地にあるが、当時の姿のまま現存する建物は少なく大変貴重なものだ。この建物は平成4年（1992年）に豊島区の指定文化財に、平成11年には東京都の指定有形文化財（建造物）に指定されている。



アールヌーボー風のタイルに彩られた暖炉



2階の格天井には割竹が使われている



カーペンターゴシック様式の特徴が表われる
玄関ポーチの方杖